

# 令和6年度 沖底漁期前調査結果

青谷沖（水深207m）で獲れたハタハタ  
（体長18-20cmの①、②番サイズの雌）



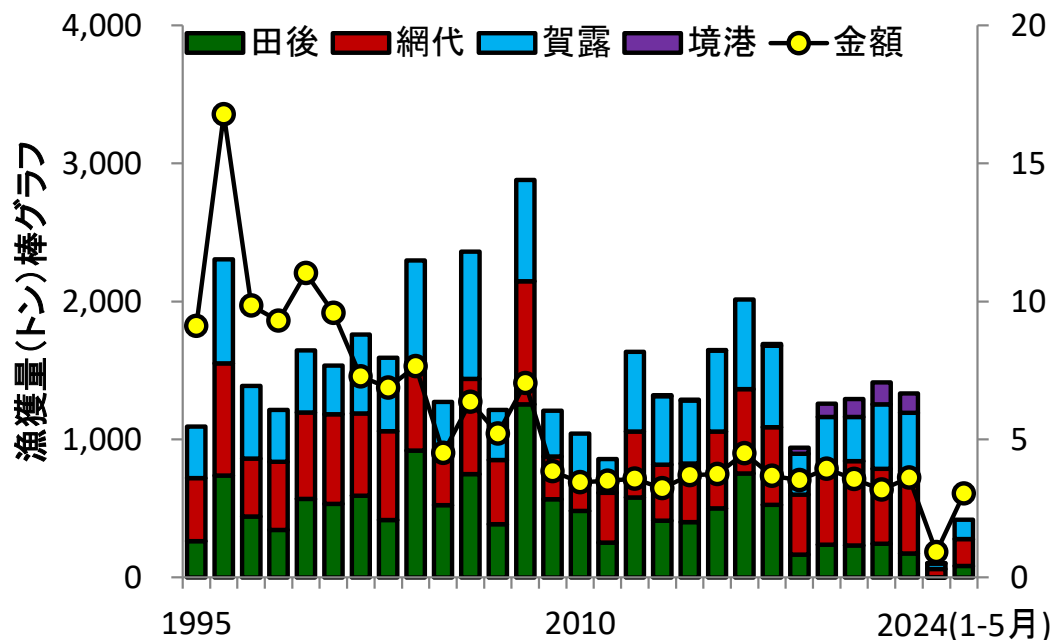
大型クラゲ（傘径1m程度）が  
全域で20個体程度（200kg程度）入網



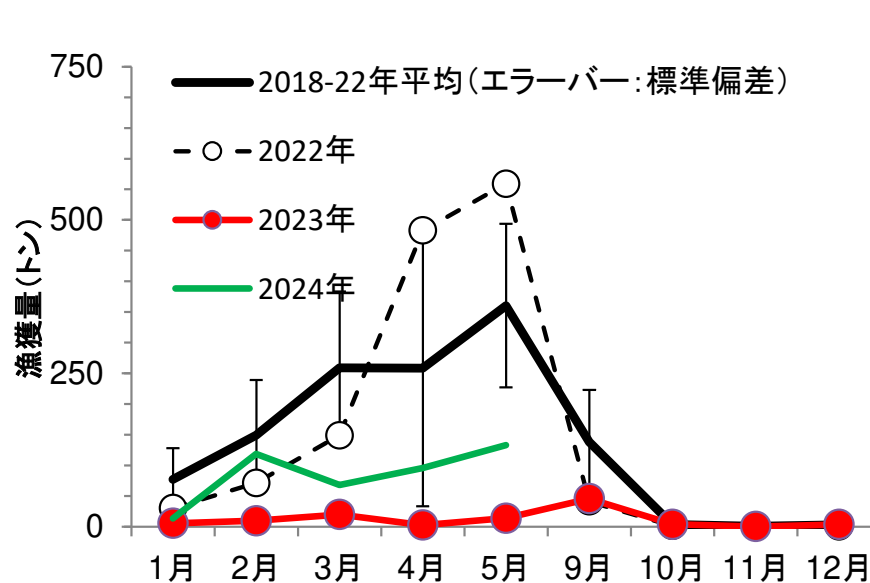
鳥取県水産試験場 藤原 大吾

# 近年のハタハタの漁獲状況

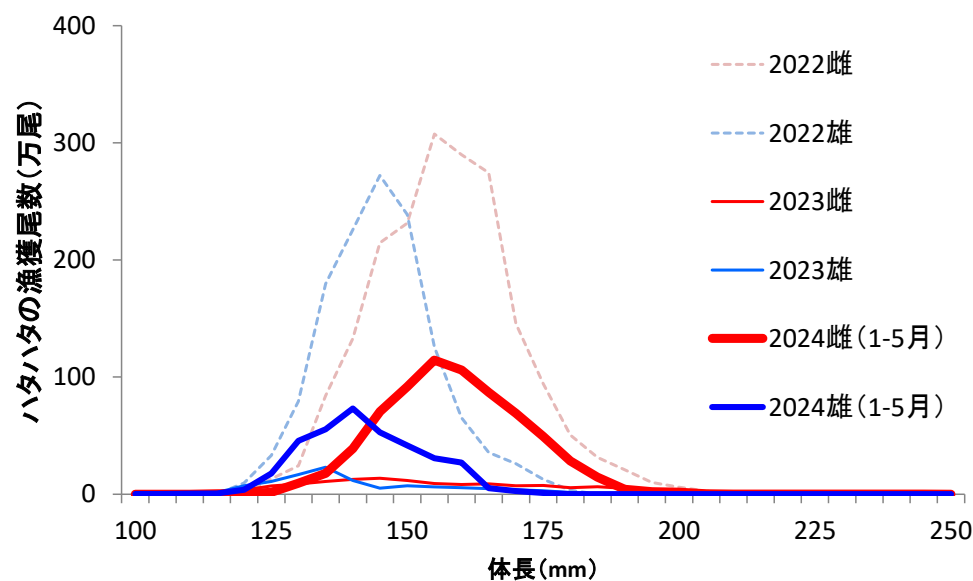
## 漁獲量の推移



## 月別の漁獲量



## 体長組成



・ 2023年漁期の漁獲量は481tで極端な不漁となった前年よりはやや回復

・ 2024年の春漁は2歳魚（2022年級群）中心の漁獲が見られた

・ **2023年の不漁は2021年級が極端に少なかったことが要因**

# 目的

第一鳥取丸を用いた試験操業により漁期始めの漁獲対象魚として期待されるハタハタの分布状況を把握

⇒10月になるとハタハタは逸散するので効率的な漁獲に役立てて欲しい

# 方法

## 【調査海域】

青谷沖3点 大瀬 (D漁礁西) 4点  
白島沖3点、中江2点、日御碕沖2点  
の計14地点で調査

## 【調査日】

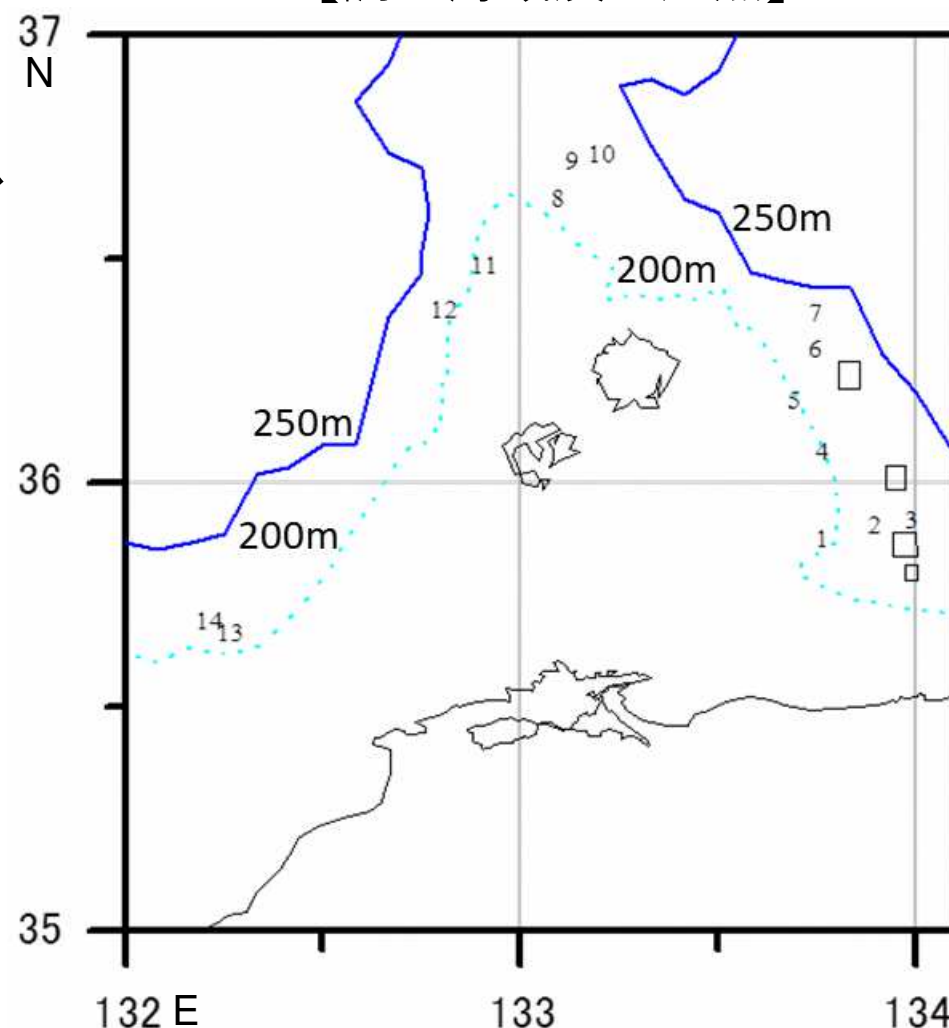
令和6年8月5-7日

St.9-14、St.5 (日御碕、中江、白島、大瀬)

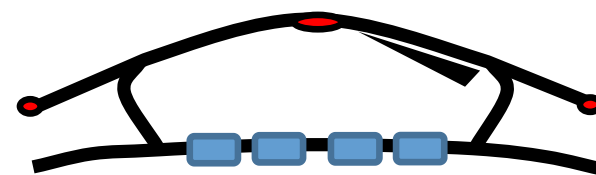
令和6年8月19-21日

St.1-4、St.6-7 (青谷沖、大瀬) を実施

## 【調査海域及び定点】



## 【調査漁具】 着底トロール網

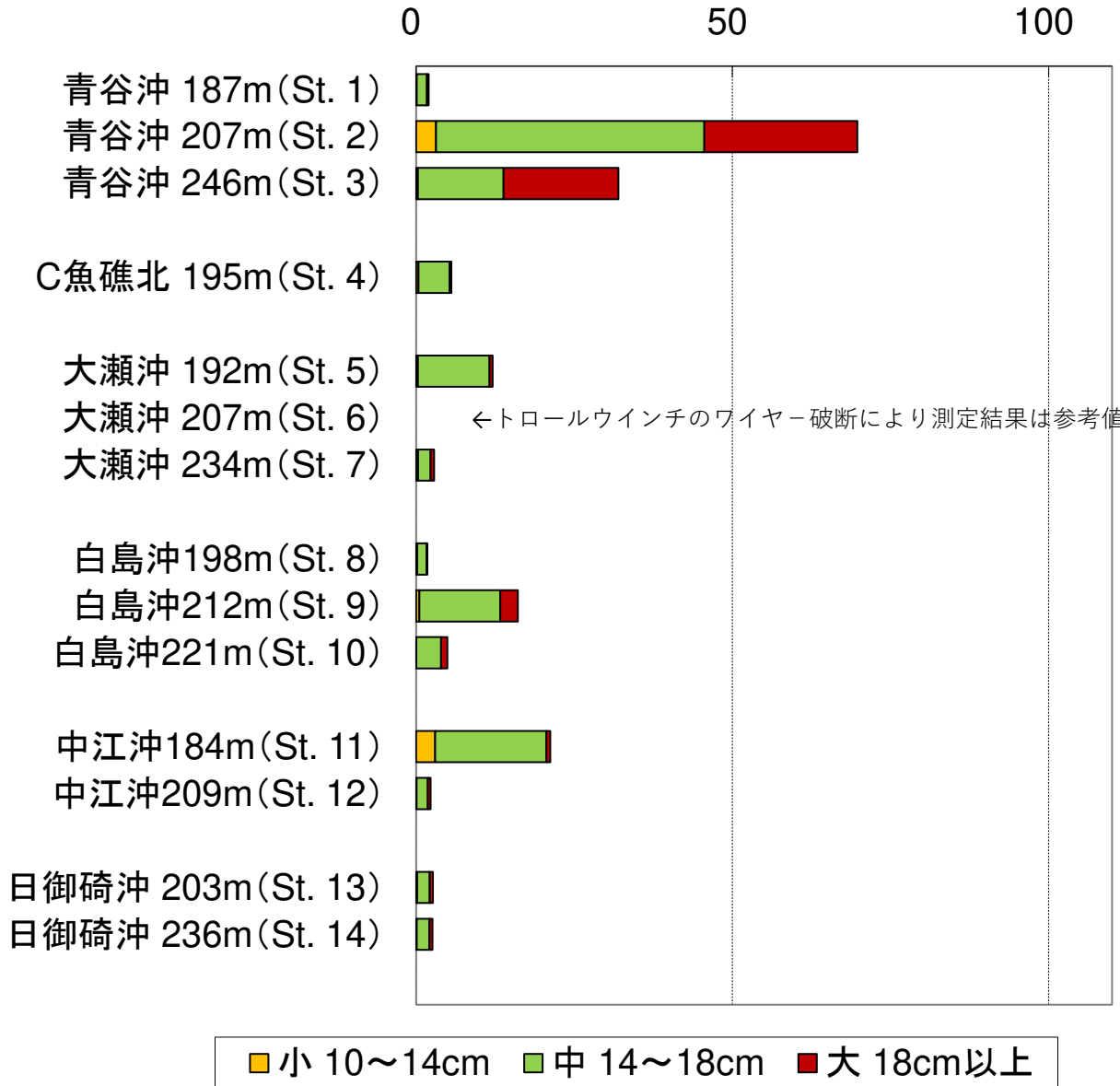


袋網の目合：7節  
網幅：20.8 ± 1.52m (17.7~23.3m)  
網高：2.0 ± 0.59 (1.5~2.9 m)  
グランドゴムボビン：141φ × 180mm

# 結果① ハタハタの分布状況

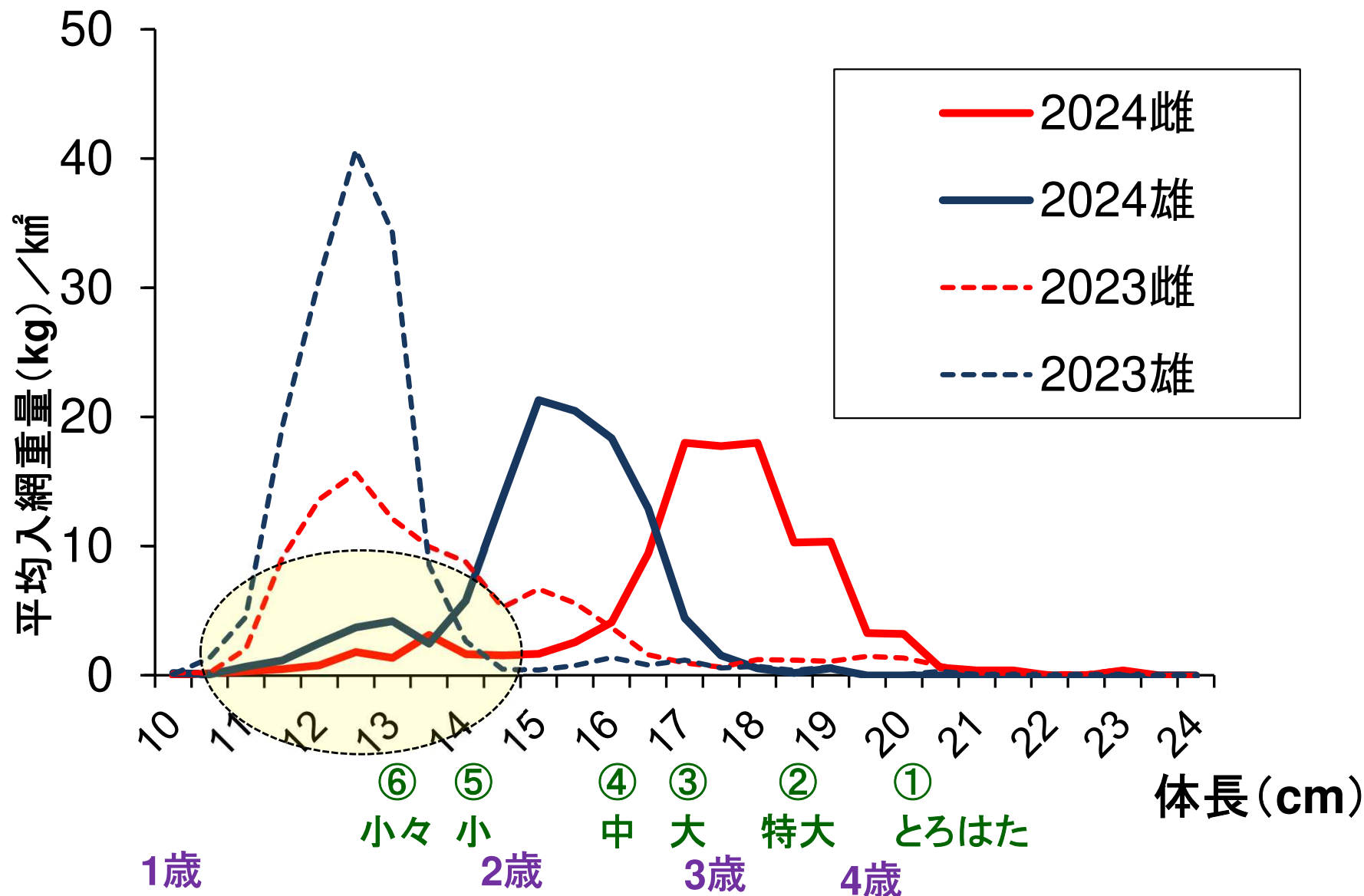
## 体長区分別の入網重量

1網(30分間, 約1.5マイル曳網)あたりの入網重量(kg)



- 青谷沖 (St. 2、3) でやや多い入網があったが、それ以外の定点では少ない入網量。
- 青谷沖では中～大サイズ (体長150-180mmの雌) 主体に入網した。
- 中江 (St.11) はやや小ぶりのサイズ (体長140-160mmの雄) 主体に入網した。

# 結果② ハタハタのサイズ組成 (全調査地点)



- ・ 体長15-18cm②－④番サイズがメイン。体長20cm程度の①番も昨年より多い。
  - ・ 一方で、1歳魚（13cm前後の2023年級群）は昨年より少ない。
- ↑ 2023年級群が少ない要因 = 親となる2021年級が少なかったことが影響か？

# 結果③ ハタハタの分布状況（過去年との比較）

300kg以上
  100kg以上

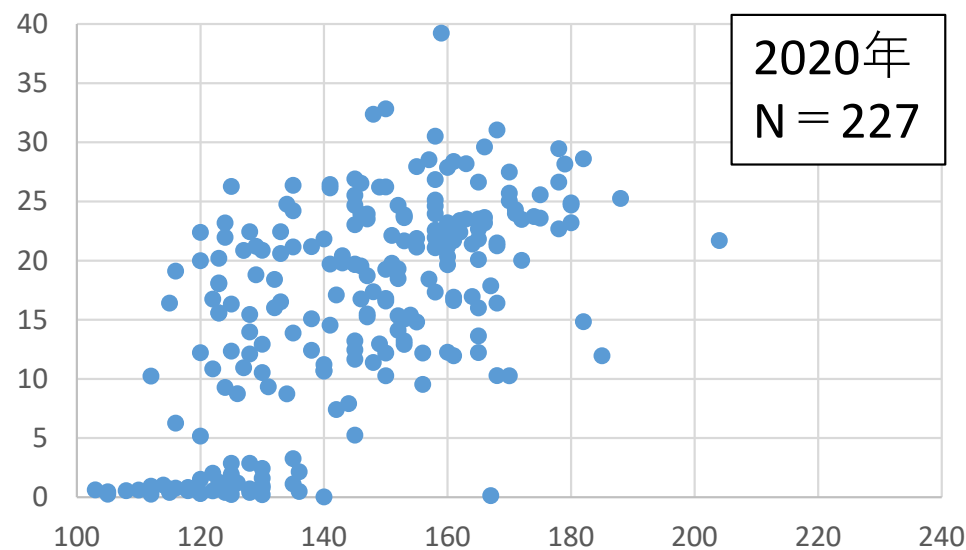
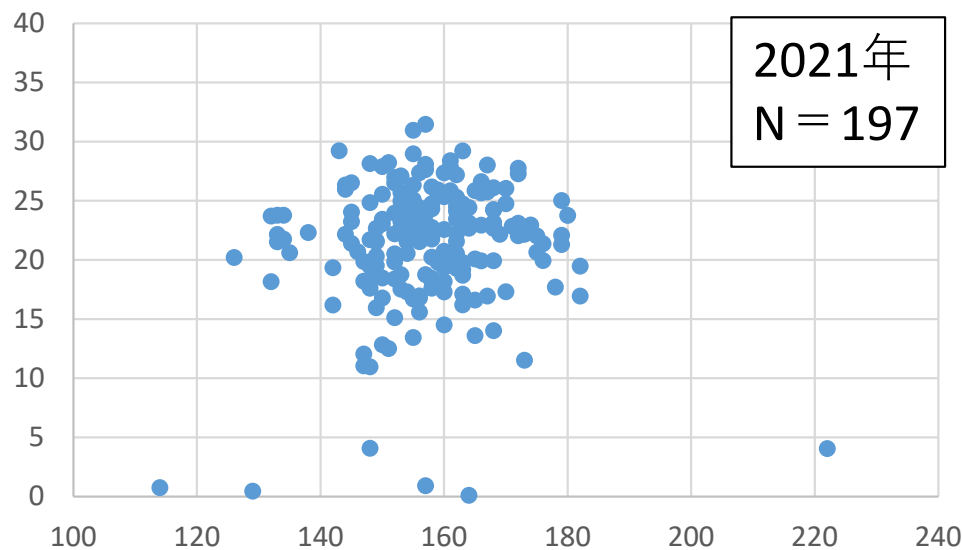
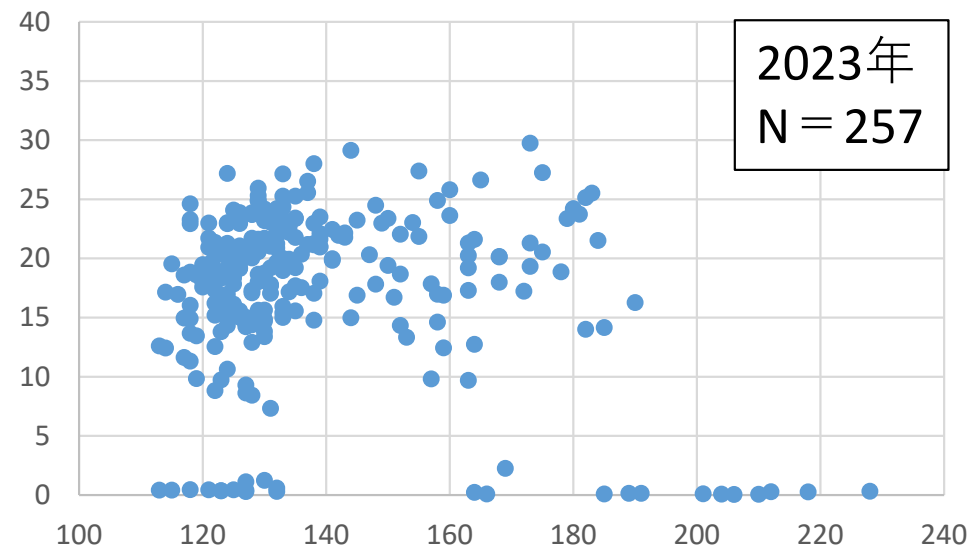
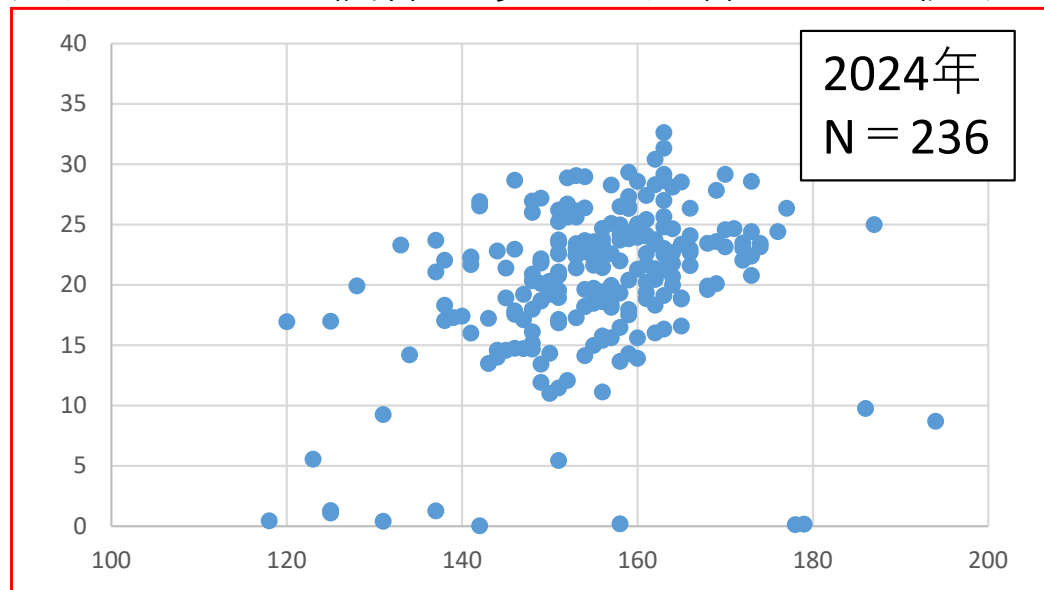
（単位：kg/1網（30分間，約1.5マイル曳網））

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
1 青谷沖 187-198m	172.2	92.8	22.6	51.2	25.0	6.9	11.5	1,515.8	46.9	95.2	39.2	2.0	
2 青谷沖 207-219m	391.0	4.3		60.9	94.0	9.3	8.6	1,602.3	120.0		7.2	69.8	
3 青谷沖 246-252m	7.0	1.5		785.4	79.9		1.1	22.2	39.0		0.5	32.0	
4 C魚礁北 195-199m	80.4	144.0		31.9	48.4	118.5	145.8	112.0	176.0		2.2	5.6	
5 大瀬 192-200m	9.3	52.6	11.2	48.2	34.7	11.3	4.3	29.2	50.4		104.4	12.1	
6 大瀬 207-215m	57.5	93.0	85.2	216.0	246.0	65.5	26.1	40.2	26.0	トロールウイ ンチの 故障に より欠 測	16.5	-	
7 大瀬 234m	27.0	150.0		855.0	222.8	18.0	22.8	100.0			2.3	2.9	
8 白島沖 204-205m	5.6	4.3		10.0	低気圧等 の影響で 調査できず		3.2	110.0	51.2		1.7	1.8	
9 白島沖 216-219m	16.0	21.0	8.8	67.5		20.6	175.7	46.3	2.3		16.1		
10 白島沖 229-235m	3.4	40.0		330.0		38.2	63.0		0.8		5.0		
11 中江 189-190m	21.5	80.1	1.6	28.2		3.5	72.0	126.0	6.2		21.2		
12 中江 218-227m	1.2	32.0		49.0		13.3	342.5	1.3	1.0		2.3		
13 日御碕沖 206-210m	0.7	7.5		2.4		4.2	28.4		9.5		2.7		
14 日御碕沖 232-233m	1.4	2.3		0.9		11.3	3.8		5.3		2.6		
平均値	56.7	51.8	25.9	181.2	107.3	38.2	22.5	301.2	68.3		-	15.1	13.5

・ 2024年は100kg以上/網を記録した地点はなく、平均値も13.5kg/網（前年比89.4%、平年比13.3%）と低調な結果となった。

# 補足① ハタハタ♂の体長と生殖腺指数の関係

成熟が進んだ個体が多い = 産卵場への移動が早く、漁期が長続きしないと考えられる。

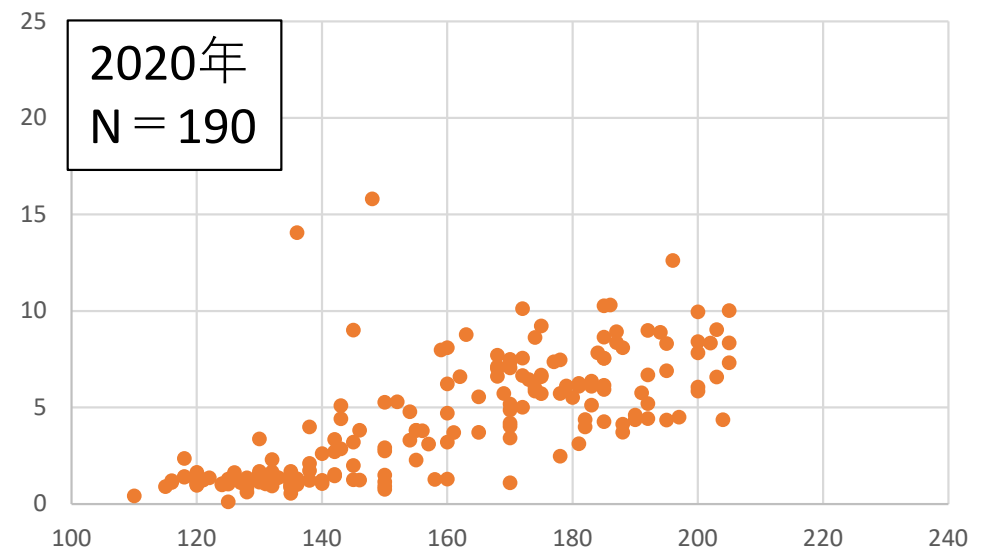
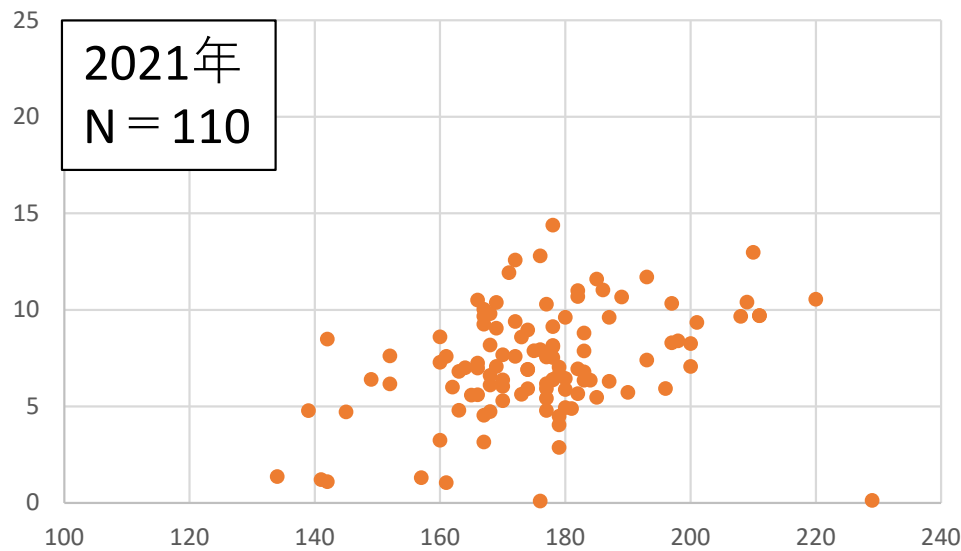
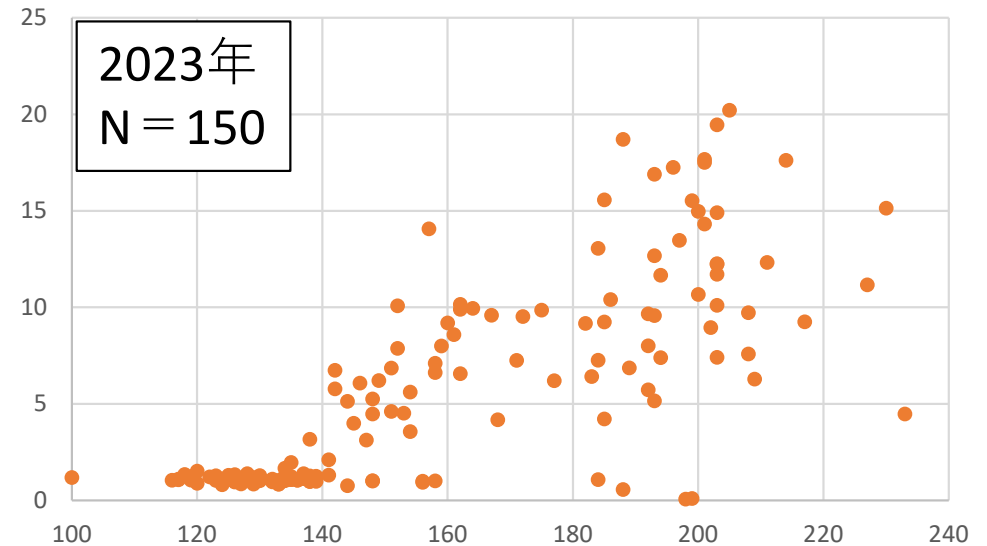
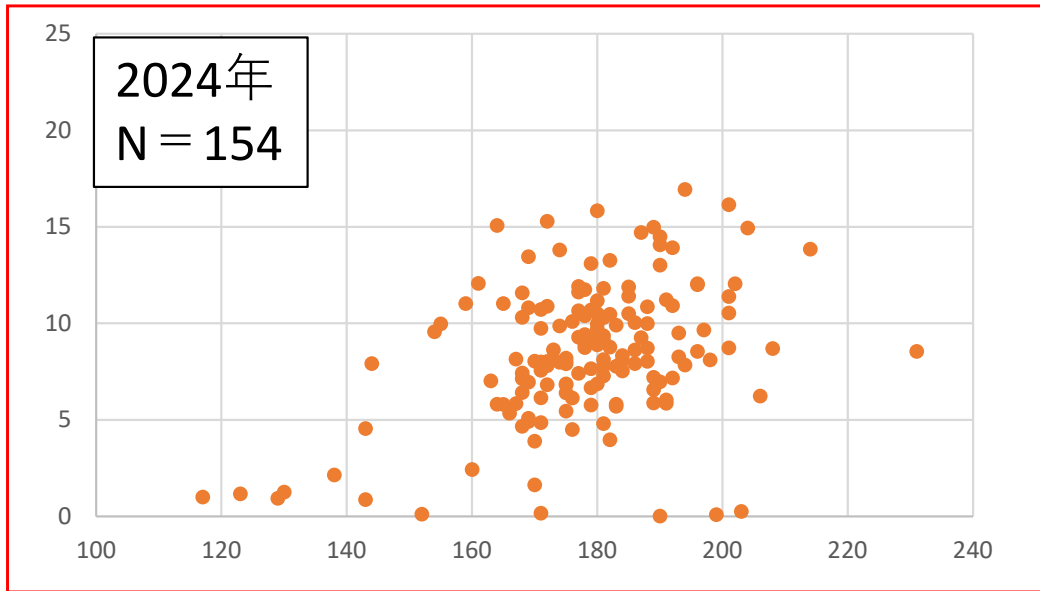


横軸：体長 (mm) 縦軸：生殖腺指数 (%) =  $\frac{\text{生殖腺重量g}}{\text{内臓除去重量g}} \times 100$

※2020年以前は秋も比較的好漁

サイズが良い2歳魚主体で成熟が進み、漁場からの逸散は早いと予想される。

# 補足② ハタハタ♀の体長と生殖腺指数の関係



※2020年以前は秋も比較的好漁

横軸：体長 (mm) 縦軸：生殖腺指数 (%) = 生殖腺重量g ÷ 内臓除去重量g × 100

卵巣の発達が進み、産卵に向け漁場から逸散するのが早いと予想される。





# 結果④ ハタハタ以外の漁獲状況



30分曳網当たりの各魚種の漁獲量 (kg)

定点	緯度	経度	水深 (m)	アカガレイ		エテ	ペラ	ニシン	スルメイカ	モサエビ	ガラエビ	オニエビ	白バイ	赤バイ	ズワイ	
				♂	♀										♂	♀
st.1	3552.79	13343.65	187	0.1	2.3	0.9	0.1		0.3	0.2			1.2	3.8	1.7	1.5
st.2	3553.92	13352.77	207	0.5	3.2	1.1			1.2	0.2			1.4	5.0	9.9	3.0
st.3	3557.93	13358.03	246	3.9	12.7	0.4	0.3		1.8	0.3		0.1	7.3	1.0	4.4	16.5
st.4	3602.84	13347.21	195			0.2	0.2		0.5	0.2			1.1	3.2	19.0	11.2
st.5	3612.20	13341.05	192		0.4	1.4	0.3		0.9					0.7	9.6	0.7
st.6	3620.64	13343.43	207						0.4				0.6	2.2	2.2	2.9
st.7	3623.98	13344.31	234		2.4	3.6	13.4	3.6		0.8			4.5	0.7	5.1	3.0
St.8	3639.35	13306.38	198		2.3		21.2	1.0	1.9				0.7	2.6	1.8	0.3
St.9	3643.98	13307.39	212	0.3	0.2		5.2	255.6	2.5				3.0	1.4	4.2	1.1
St.10	3644.07	13310.46	221	3.6		0.2	8.2	21.5	1.8				2.3	1.6	10.2	26.9
St.11	3629.81	13255.10	184			4.6	1.2	0.2					1.0	5.7	42.3	1.1
St.12	3623.25	13248.85	209		0.3	6.6	1.6	0.3	3.2	0.2			1.9	3.6	19.5	16.7
St.13	3538.42	13212.84	203			2.3	3.3	0.6	1.8	2.1			5.9	3.0	10.6	6.0
St.14	3542.27	13212.03	236			3.1	6.6	2.9	1.7	1.8			3.1	6.3	11.7	25.3

良く獲れた魚種が少ない状況ではあるが、

- ・アカガレイが青谷沖 (st.3) (体長200-230mmの雄、250-300mmの雌) で入網
- ・ニシンが白島沖 (st.9) (体長230-260mmサイズ) で入網

## 【参考】

兵庫の漁期前調査⇒ハタハタは低調、アカガレイは前年をやや下回る程度の入網量  
 島根県の二艘曳の情報⇒8月半ばからアカムツ狙いの操業を行っているが低調な漁獲

# まとめ

## 【沖底漁期始めの漁況の見通し（ハタハタについて）】

- ・ハタハタは中型サイズ（②～④番）メインに漁獲があると予想される。
- ・9月のハタハタの漁獲量は前年並み、平年を下回る低調な漁獲になると予想される。
- ・また、漁期開始からハタハタが獲れる期間は短いことが予想される。

※雌雄ともに成熟が進んだ個体が多く、産卵回遊のため漁場から早く逸散すると考えられる

※1歳魚（体長13cm前後の2023年級）が少ない状況については親となる2021年級が極端にいなかった（=2023年不漁の原因）ことが影響していることが懸念される

## 【沖底漁期始めの漁況の見通し（他魚種について）】

調査で目立って良く獲れた魚種はなく、カレイ類、スルメイカ、モサエビ等漁獲は低調になることが予想される。

※兵庫県但馬水産技術センターの漁期前調査ではアカガレイの入網量が前年・平年をやや下回る結果となった模様

※島根県の底曳き網（二艘曳）も8月からアカムツ狙いの操業を行っているようだが、漁獲は低調とのこと

## 【今後の鳥取丸の沖底関連調査】

9月10日～20日：隠岐周辺、浜田沖でのズワイガニ（稚ガニ）・カレイ類（稚魚）桁網調査

9月30日～10月25日：ズワイガニ漁期前トロール調査